「病人を癒し、福音を宣教する」　2023年02月02日

イエスは会堂から立ち去り、シモンの家に入られた。シモンのしゅうとめがひどい熱に苦しんでいたので、人々は彼女のことをイエスにお願いした。イエスが枕元に立って熱を叱りつけられると、熱は引き、彼女はすぐに起き上がって一同に仕えた。（ルカ福音書４：38～39）

しかし、イエスは言われた。「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。私はそのために遣わされたのだ。」そして、ユダヤの会堂に行って宣教された。（ルカ福音書４：43～44）

主イエスは、カファルナウムの会堂を出て、シモン（ペトロ）の家に入られた。すると、シモンの姑がひどい熱を出して苦しんでいたので、人々は彼女の癒しをお願いした。主イエスは枕元に立って、熱を叱りつけると、熱は引いた。彼女は起き上がって、一同に仕えた。来客を歓迎し、もてなしたのであろう。

日が暮れると、人々は、色々な病気に悩む者を抱えた人々が、病人を主イエスのもとに連れて来た。主イエスは一人ひとりに手を置いて、癒された。言葉で、手を置いて、病気に苦しむ者たちを癒す奇跡を行われた。また、主イエスをメシアだと知っている悪霊を叱りつけると、悪霊は「あなたは神の子だ」と叫びながら、多くの人から出て行った。

これらの業から、主イエスは民間治療師であったと理解する人もいる。当時、ファリサイ派の人々は、病気は罪を生み出した者への神からの裁きであり、病人を「罪人」と烙印し、ユダヤの共同体から排除していた。律法に基づく差別を当然と考えていたのである。しかし、民衆は病気に苦しむ者、悪霊につかれた者たちに思いを寄せ、主イエスに癒しを求めて、連れて来ている。民衆は苦しむ者に同情するが、権力者たちは切り捨てることによって、自らの力を誇示するのは、いつの世でも見られることである。著者ルカは、苦しむ者を、主イエスの癒しを通して、罪から解放し、共同体へ復帰させ、人間を回復していく、神の子の恵みの福音であると証言している、と受け止めるのが著者の意図に沿う。

朝になると、主イエスは寂しい所に出て行かれた。人のいない所に出て行かれたのは、一人で祈るためではないか。福音書にはしばしば、一人になられて祈る主イエスの姿を記している。主イエスの激しい、多忙な宣教生活は祈ることによって、力を得ていた。静かに祈る人がダイナミックな活動を可能にするのである。マザーテレサは道端に放り出されて、一人で死に逝く人を看取る徒労に見える働きをし続けたが、彼女は礼拝堂で長時間、一人静かに祈る人であったと伝えられている。

民衆はいなくなった主イエスを捜し回り、見つけると、自分たちから去らないようにと引き留めた。癒してくださる主イエスを慕い、見捨てないように懇願した。主イエスは、「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。私はそのために遣わされたのだ」と言われた。飼う者のない羊のように、捨て置かれた民衆に福音を宣べ伝えるために遣わされた自分の使命を語られた。

ガリラヤの民衆は、ローマの権力に抑え込まれ、横暴な領主に搾取され、宗教家たちに心の自由を奪われ、地べたを這い回るような生活を強いられていた。主イエスは、彼らに生きる力を与え、病む者を癒し、人間へと解放する恵みの福音を現わされた。ガリラヤの各地を巡回しながら、「神の国」を広げていかれた。